

2026
3
March



不適切事案に係る対応状況について

当社の対応

< 2月19日より地域の皆さまへの説明会を実施中 >

この度の基準地震動策定に係る不適切事案に関し、地域の皆さまから発電所の安全性についてご不安の声を多くいただいております。心よりお詫び申し上げます。こうした状況を踏まえ、本事案の内容と現在の発電所の安全性について、地域の皆さまへの説明会を2月19日より実施しています。



▲御前崎市佐倉地区での説明会

国の対応

< 2月25日 中部電力株式会社の不正行為に係る検査状況の報告（第1回目） >

当社本店へのこれまで2回の規制検査の状況について報告がありました。

< 規制検査の状況 >

1月26日

- ・ 本事案に関係している可能性がある部署への聞き取りを行い、関係者および文書・記録のリストを示すよう指示。
- ・ 基準地震動策定業務をどのような業務プロセスや品質管理体制で行っていたか聞き取りを実施。

2月12日および13日

- ・ 原子力土建部を最初の検査対象部署とし、基準地震動策定業務がどのように実施されているのかなどについて、提出された関係文書・記録等の内容をもとに事実関係や経緯等の聞き取りを実施。
- ・ 中部電力から提出された関係者のリスト等に基づき、原子力土建部内で本事案に関与していた者へ事実関係や経緯等の聞き取りを実施。

発電所トピックス

緊急事態対策訓練の実施

2月17日、緊急事態対策訓練を実施しました。今回は浜岡原子力発電所4号機（安全性向上対策工事完了）運転中および3号機、5号機（安全性向上対策工事中）停止状態で、同時に重大事故等が発生したとの想定をし、内容を事前に明かさないうらインド方式で訓練を実施しました。当日は重大事故への対応や通報訓練、避難誘導等を行い、災害対策組織や対策要員の対応能力の向上を図りました。



緊急時対策所での対応の様子



可搬型気象観測装置の設置の様子

浜岡原子力発電所 公開情報について

○プルトニウム利用の促進に向けた当社の取り組み（2026年1月15日）

- ・当社は、燃料加工メーカーと浜岡原子力発電所におけるMOX燃料の加工契約を締結し、MOX燃料60体（第2回製造分）を仏国で保管していましたが、これをメーカーに引き渡しました。なお、当社は、将来必要な時期に再度燃料加工をおこないます。
- ・当該60体のMOX燃料については、中国電力が燃料加工メーカーから供給を受け、島根原子力発電所で実施するプルサーマルに活用する予定です（注）。

注）当該60体に含まれるプルトニウムの所有権は当社から中国電力に移り、中国電力が仏国で保有する同じ量のプルトニウムの所有権が中国電力から当社に移りました。

○プルトニウム利用計画（2025年度）（2026年2月20日）

本日、電力11社（注1）は、日本原燃（株）の六ヶ所再処理工場およびMOX燃料工場の暫定操業計画や昨年度からの状況変化を踏まえ、最新の「プルトニウム利用計画（注2）」を策定し電気事業者連合会がとりまとめました。

当社は、現在、プルサーマルの導入時期を定める状況にありませんが、昨年度策定した計画と同様、利用場所を「浜岡原子力発電所4号機」、年間利用目安量を「約0.6トンPu/年」としています。当社は、「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」に基づき、利用目的のないプルトニウムは持たないとの原則の下、事業者間の連携・協力も含め、国内外のプルトニウムの利用促進・保有量の削減に向けて、引き続き取り組んでまいります。

注1）北海道電力、東北電力、東京電力HD、北陸電力、関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、日本原子力発電、電源開発および当社

注2）「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方（2003年8月5日、2018年7月31日：原子力委員会決定）」に基づき、電気事業者がプルトニウムの所有者、所有量及び利用目的を記載し公表するものです。

○浜岡原子力発電所の2025年度低レベル放射性廃棄物の輸送の取り止め（2026年1月30日）

当社は、2026年2月に予定していた低レベル放射性廃棄物の輸送を取り止めることとしました。

【取り止めた内容】

発電所名	輸送数量	輸送時期	受入施設名
浜岡原子力発電所	輸送容器116個 (ドラム缶928本)	2026年2月	日本原燃（株）低レベル放射性廃棄物埋設センター

○浜岡原子力発電所2号機取水路の埋め戻し工事の着手（2026年2月3日）

当社は、浜岡原子力発電所1、2号機について廃止措置第3段階の工事を進めており、2号機取水路の埋め戻し工事の準備が整ったため、2月3日より工事に着手しました。今後も安全確保を最優先に工事を着実に進めてまいります。また、1号機取水路の埋め戻しおよび1、2号機取水塔の撤去についても詳細な検討および準備を進め、透明性を確保しつつ工事を実施してまいります。

○第1期工事

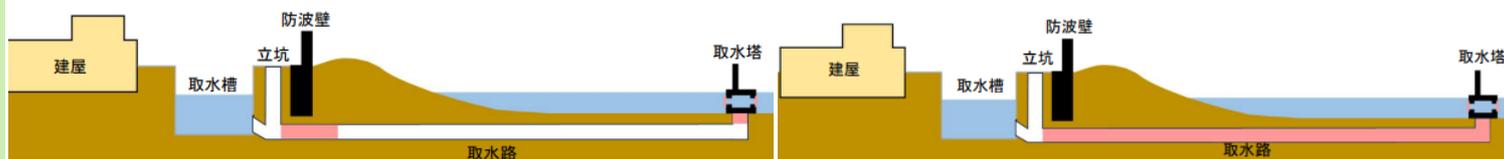
工事期間：2026年2月～2027年5月予定

工事内容：2号機取水路の発電所側および取水塔側の一部を埋め戻す

○第2期工事

工事期間：第1期工事終了後に実施。

工事内容：第1期工事で埋め戻さなかった範囲を埋め戻す。



○浜岡原子力発電所3号機 主排気筒における原子力施設用灯火の点灯不良（2026年2月24日）

2月21日18時14分、3号機主排気筒に設置している原子力施設用灯火（注）の異常を示す警報が点灯したため、当社社員が現場を確認したところ、原子力施設用灯火4灯のうち、北側の1灯が消灯していることを確認しました。このため、すみやかに設備を管轄する東京空港事務所へ、本事象の連絡をおこないました。今後、準備が整い次第、当該原子力施設用灯火の点検をおこないます。

<放射能の影響>

本事象は外部への放射性物質の放出に関わる事象ではありません。

注）原子力施設用灯火は、原子力施設への航空機の接近を防止するためのもので、浜岡原子力発電所には、3号機の主排気筒のみに設置されています。

○浜岡原子力発電所4号機タービン建屋における水の漏えい（2026年2月25日）

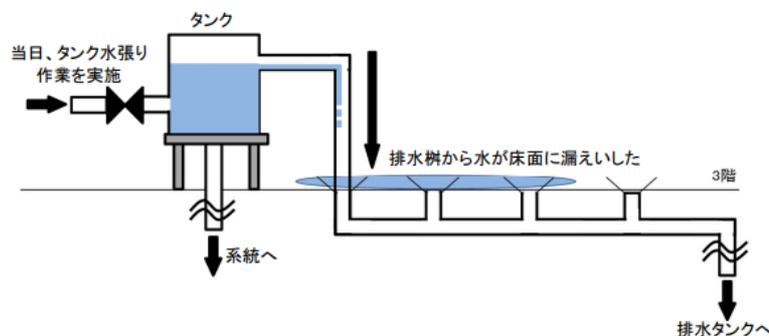
2月24日17時08分、4号機タービン機器冷却水系（注）の冷却水を補給するタンクの水位上昇を示す警報が点灯したことから、当社運転員が現場を確認したところ、4号機タービン建屋3階北東エリア（放射線管理区域内）の排水枡付近で約10リットルの水たまり（約5m×約2m×厚さ約1mm）を発見しました。原因は、当日実施したタンクへの水張り作業の影響により、タービン建屋3階北東エリアの排水枡から溢れ出たものと推定しています。

現在、排水枡からの水の漏えいは停止しており、漏えいした水の拭き取りは完了しています。なお、漏えいした水の放射能測定の結果、放射能は検出されませんでした。今後、詳細な原因調査をおこない、適切に対応してまいります。

<放射能の影響>

本事象による外部への放射能の影響はありません。

注）タービン機器冷却水系は、タービン系の機器（ポンプ、モータ等）の冷却をおこなう系統です。系統内を循環する冷却水は、不純物を取り除いた水（脱塩水）を用いており、放射能は含まれていません。



概略図

公開情報は
こちらから
ご覧いただけます



